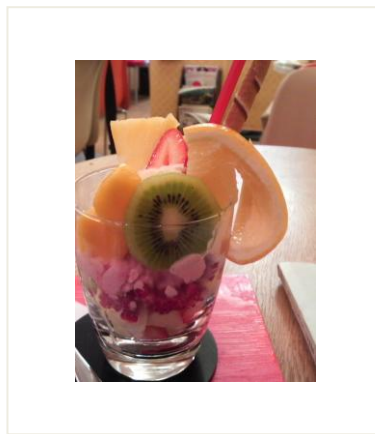




3月のトピックス

- 5年目の春
- 立派な歴女
- 白鳥の湖



5年目の春

こんにちは。ウイズワン迫前です。

桜が咲くのを待つこの季節が私は好きですが、皆様いかがお過ごしですか？

さて、この春ウイズワンは創立4周年となりました。これもひとえに皆様からの暖かいご支援のお陰と感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。これからも皆様に役立つサービスが提供できる会社として一所懸命に働いて行きたいと思えます。

そして、このニュースレターを配信し始めて足掛3年になりました。私の旅行記や日常気付いたこと、美酒美食などと、弊社からのお知らせやセミナー情報を原稿数ページで読んでいただけるようにまとめています。弊社とお仕事等で関わりのある方にメール配信をさせていただいています。仕事の合間の息抜きによろしければご覧ください。

では、今期もどうぞよろしくお付き合いください。

立派な歴女

取引先の担当者の方に、歴史小説が好きだと話したところ「歴女ですね～」と言われました。歴女(れきじょ)とは、歴史好きの女性を指す造語で、女性の多趣味の体現のひとつとして2009年頃から使用され始めました。愛好対象となる人物は、伊達政宗、真田幸村、諸葛亮、石田三成、直江兼続、坂本竜馬、土方歳三、岩本徹三とあります。(ウィキペディアより)

私は歴史や時代小説が好きです。今ではリーダーシップや経営の参考にするため歴史上の人物から学ぶという視点で読んでいます。私の歴史小説デビューは司馬遼太郎氏の幕末のパイオニア「竜馬がゆく」でした。他には宮本武蔵、三国志、新・平家物語、菜の花の沖等を読んできました。時代物は池波正太郎氏「鬼平犯火帳」の大ファンです。TVドラマで放映される「鬼平犯火帳」で中村吉衛門さん演じる鬼平のイメージも相乗して火付盗賊改方の長谷川平蔵のリーダー像に惚れ惚れします。この小説の違った楽しみ方としてはグルメな池波氏が描く鬼平が楽しむ酒肴エピソードです。やはり私は立派な歴女のようにです。

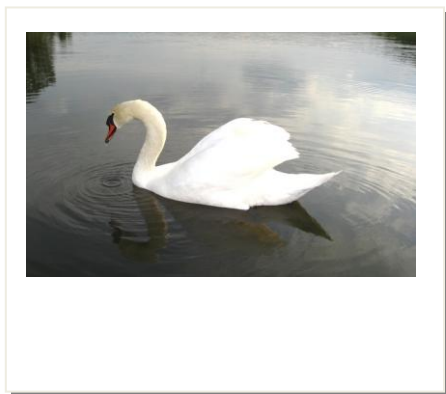


さて最近、山岡荘八氏の「徳川家康」全26巻の25巻を読み終えたところです。この小説では家康の幼少期、成人、夫、親、大将として、それぞれの立場と役割に苦悩しながらも順応してきた成長過程が描かれています。生涯ずっと天下泰平という志をぶれさせずに実行していく信念と行動力は素晴らしいです。昨日から最終巻を読んでいます。大阪夏の陣を終え、不覚にも秀頼を自害させた齢74歳の家康の苦悩が描かれもらいを泣きました。戦略や戦術、政治には、長けてきた家康でしたが、事業継承のための人材育成では随分と苦勞する様子が伺えます。この本が経営者の教科書としてベストセラーになった意味が分かるような気がします。それぞれのエピソードが知恵の宝庫のようで読み返したい本と呼ばれているのが、私にも分かりました。

さて、そんな小説「徳川家康」は超ロングセラーです。私が 25 年前に小さな書店でアルバイトをしている当時から売れ筋でした。アルバイト当時の私の時給は 800 円。「徳川家康」文庫本 1 冊 480 円。現在はなんと 780 円です！そして現在まで経営者の教科書として売れ続けシリーズ合計 5000 万部を発行。今では中国でも出版されて人気があるらしいです。家康は、秀吉のように国内を平定して海外に出て行く戦略を選びませんでした。21 世紀になりようやく海外進出を果たされるようです。

白鳥の湖

幕が開き、シーンと静まり返った舞台の上に、スポットライトを浴びて立つプリマドンナ。華やかな舞台で華麗に踊るバレリーナ姿に子供時代は私もあこがれました。私の通うスポーツジムでもバレエエクササイズを取り入れたプログラムは大人にも人気です。



先日、神戸文化ホール 大ホールで開催されたバレエ教室の発表会を鑑賞しました。友人のお嬢さんが出演する発表会のプログラムは約4時間の長丁場。プログラム前半にはバレエ教室の生徒らが各グループ約 5 分のショート演目で演技します。後半はプロが出演する「白鳥の湖」でそのうち一幕にはまた、生徒も出演する構成でした。

前半の生徒の演技では、未就学の子達の演技は上手い下手を超越する可愛らしさがありますし、小学生以上になると衣装やメイクも本格的になり、少しキャリアのある子供はトゥシューズを履いて踊るのでみな素敵なバレリーナです。そして後半のプロが出演する白鳥の湖。この「白鳥の湖」は、眠れる森の美女、くるみ割り人形の3大バレエと呼ばれています。ロシアのバレエ音楽からなるバレエ作品です。主役のオデット以外のバレリーナ達も湖に悠々と泳

ぐ白鳥のように白のドレスと白鳥の髪飾りを付けて踊ります。その数は圧巻で奇麗です。そんな「白鳥の湖」のステージはやはりバレリーナの卵たちのあこがれらしいです。

この「白鳥の湖」のあらすじですが、主役の白鳥オデット(女性)を悪魔が魔法で白鳥に変えられます。オデットが白鳥の姿から一時人間の姿に戻ったときに王子様が登場してオデットと恋に落ち、悪魔が王子とオデットとの恋の邪魔をするが愛の力は強く……結末を迎えます。結末はハッピーエンド版と悲劇版があります。悲劇として二人が死んでしまう場合や来世で結ばれるというもの。現在、演じられるのは魔法が解けてハッピーエンドのようです。バレエの演技では手足を長くしなやかに使う表現力、リフティング(女性が男性に持ち上げられること)、ジャンプや連続回転、開脚して足を高く上げるポーズなどにも大いに魅了されました。身体能力の極みとして美意識があり一見の価値があります。バレリーナ達のプロポーションの良さに私もダイエットしなきゃと省みる良い機会でした(笑)。

欧米では紳士・淑女の社交の場としても長い歴史を持つバレエ。実は私も数年前まで鑑賞したことがありませんでした。例外もありますがバレエには演劇のようなセリフがなく、生演奏のオーケストラと共に上演されますので海外バレエ団の公演であっても、言葉の壁を気にせずに楽しめます。是非一度あなたも“バレエ観劇デビュー”いかがでしょうか。



パリ オペラ座

株式会社ウイズワンニュースレター編集部 発行人 迫前美鈴

株式会社ウイズワン

〒650-0022 神戸市中央区元町通 6 丁目 8-10 山端ビル 206 TEL:078-360-6115

【ホームページ制作】<http://blog.withone-jp.net>

【セールスサポート・セミナー】<http://withone.net>

【美酒美食ワインブログ】<http://bichelin.exblog.jp/>

Copyright©WITHONE ,All rights reserved.